

政策の方向性

Policy

6 新しい価値観を大事にできる台東区にします
【生活様式、技術、人権、環境】

新しいライフスタイル、技術革新に対応した新時代の区政を創ります。区民の皆様の「時間」を生み出すお手伝いをし、便利になったことを実感できる区政にします。人権や環境問題も考えます。

- ・仕事とプライベート、仕事と子育て、仕事と介護が両立できるよう応援します。社会保障の側面だけでなく、それと表裏の関係にある「労働環境の整備」にも区で積極的に取り組みます。企業や事業主にも働きかけをします。
- ・依然として解消されない待機児童問題の深刻さを認識しつつ、子育て支援を進めます。自ら保育を行う親が相談し、交流できる場の設置を進めます。保育所は、小規模保育、家庭的保育など柔軟で機能的なものを重視します。事業所保育、夜間保育、病児保育、一時預かり保育、放課後児童クラブも整備します。
- ・情報通信技術を区政のすべての領域で導入します。十分な移行期間を設けつつ、完全導入の目的を付けることを目指します。導入コストにも配慮し、行政の働き方も同時に見直します。災害時でも業務継続ができ、サイバー攻撃にも強い電子自治体の実現を目指します。
- ・区民の多様なニーズに応えるため、すべての領域で行政の働き方を工夫します。早朝・夜間・土日、もっと便利で身近に感じてもらえる台東区にします。
- ・過激なヘイトスピーチには「反対」の方向で毅然と対応します。外形に表れる部分が問題です。
- ・増加する外国人との共生を進めます。生活支援(町のルールへの理解促進)や災害・緊急時のサポート体制を整えます。
- ・ごみ収集やリサイクル資源回収のコストを減らす方を町会の皆様と考えます。
- ・動物愛護の精神を普及させ、さらなる政策を展開します。
- ・蚊、蟻、蜘蛛、ゴキブリ、ネズミ、カラス、(ウミネコ)といった都市の害虫、害鳥対策をします。
- ・持続可能な社会の実現を目指します。「スマートコミュニティ」をはじめ、最先端のエネルギー政策時代の到来に向け、準備・研究を進めます。東京都の水素推進政策に積極的に協力します。既存の省エネ施策も継続します。

7 住んで楽しい、訪れて楽しい、夢ある台東区を創ります
【歴史、文化、芸術、スポーツ】

緊急時への備えができることに加え、「多様な価値観がある文化芸術等の分野に資源を投入できること」は成熟都市の証です。

- ・2020年東京オリンピックのマラソンで区全体を一つのスタジアムにします。子供たち全員が生観戦、パブリックビュー、ボランティア等、何らかの形でオリンピックに関われるよう準備を整えます。最新技術を活用します。一生の思い出になるよう、「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」、「支えるスポーツ」の考え方をオリンピックにおいて体现します。
- ・区民が毎年楽しみにしている祭やイベントが中止にならないよう区がしっかり関わり、支援します。
- ・台東区出身のスポーツ選手や芸能・舞台関係者を基準を設けた上で区を挙げて応援する仕組みを作ります。現在の表彰制度は、表彰後も台東区に関わっていただけるよう制度を整えます。
- ・文化行政をさらに進めます。区の文化財、文化、歴史、伝統、技術、経験をしっかり後世に伝えます。郷土資料室を充実させ、区の博物館等も活用、ヴァーチャル技術も用います。まちづくり検定や台東区全体をフィールドにしたイベント等、楽しみつつ区の歴史・文化を学ぶことのできる環境を増やします。これまでの芸能・映像・映画・演劇分野における呼び込み型の事業も継続します。国立西洋美術館の世界遺産登録を推進します。上野の森文化拠点構想を都と連携しさらに進めます。
- ・台東区で一流の舞台芸術をさらに観られるよう、積極的に誘致をします。

8 頼りにされ、選ばれる、責任ある台東区を創ります【連携、行政】

区でやることになっていること、区でやるべきこと、区でしかできないことに責任を持つと同時に、都や国に要望したことは台東区も自ら解決策を考え、共に頑張る責任ある台東区を創ります。他の自治体・都・国との連携、海外都市との友好促進に努めます。魅力をさらに高め、選ばれる台東区を創ります。

- ・都や国とあらゆる分野で連携強化をします。
- ・お互い様の精神で、隣接自治体との間での施設の相互利用を進めます。単独の自治体だけでは解消できない不便さを、連携により解決します。
- ・相互支援協力協定、友好都市協定の締結を進めます。人や文化の交流をさらに図ります。小さくても輝く都市や現状ゼロのアジアの都市との連携を重視します。
- ・台東区の魅力を広く発信するために、広報強化を行います。反対に、台東区関連報道(海外のパンフレット等も含む)を定期的に収集し、区民に公開します。誇らしさを高めることができ、どの点が評価され、どの点が評価されていないのか、生の声もわかるからです。
- ・「公務員になりたい」ではなく、「台東区の公務員になりたい」と思ってもらえるように学生PR強化を含む採用プロセスの改善工夫をします。23区一括採用の中でも選ばれる台東区を創ります。
- ・区内2つの芸術大学を含む、大学や研究機関との連携を進めます。特に、知の連携を進めます。専門図書へのアクセス確保と共に、各種の研究対象に台東区を選んでもらいます。実証実験の募集に積極的に応募します。社会科学、自然科学問わず、最先端の研究成果の恩恵を享受できるからです。

自宅には、大学院で使った論文のコピーが大量にあります。整理する際には、著者のあいうえお順や出版年順など誰がやっても同じ結果になるような機械的な分類方法を採用しています。「分野横断的なもの」があるのはもちろんですが、当該資料を必要とする時々によって「資料の見方が変わる」からです。分野別、内容別で分類を行うとどこかで必ず破綻します。しかし今回は読みやすさに配慮し、網羅的ではありませんが、大きなまとまり毎に政策の方向性をご提示する形式にしました。

9 行政運営の視点を見直し、「政策で挑戦」する台東区を創ります【協働、行政】

行政や政治だけで頑張っても、台東区をより良くすることはできません。区民の皆様が必要とします。また、前例に捉われず、他の自治体と横並びではなく、当たり前疑問を持ち、常に進化し続ける区政運営を行います。国や都との表面的・硬直的な事務権限配分に捉われず、国と地方の関係に一石を投じます。あらゆる分野で台東区独自の基準設定に挑戦します。

- ・台東区の強みである「コミュニティの力」を生かせる区政にシフトします。民を信頼し、官・民の役割分担と民のサポートをさらに進めます。NPO支援強化と中間支援団体設立を急ぎます。町会活動もさらに応援します。構成員の高齢化対策やマンション住民の加入促進、防災防犯の地域対応力向上を喫緊の課題と捉え、町会の意義と役割をより一層広報します。一律の補助ではなく、自ら工夫する町会にはさらなる支援を行います。
- ・すべての施策の基本となる個人情報保護、情報公開の基準を見直します。
- ・条例等による規制行政だけでなく、契約的手法等の柔軟な手法をあらゆる分野で積極的に活用します。調達・入札などあらゆる機会を捉え、政策課題を実現していきます。
- ・基本条例は、理念型であれば台東区に必要ありません。多くの条例・構想・目標・計画等がある中、こうした条例体系の定期的見直しを行い、体系的で実効的・機能的な行政運営を行います。企画課とは別に、政策法務を専門で扱う部署の創設に向け、調整を行います。審議会等においては法學専門家を活用します。
- ・「健全な台東区」に向けて、長期的な施策を展開します。また、これまでの成果が無駄にならないよう、ホームレス支援対策も継続します。
- ・区の大課題である生活保護を考えます。生活保護に至る前の支援を充実させます。また、生活保護制度への理解を促進する仕組みの導入に挑戦します。
- ・区政のあらゆる分野に大きく影響する「世帯」の概念について、整理・研究を行い、政策に生かします。
- ・行政の徴収コストを減らし、区民の納税手続きを簡素化するため、特別区税の手続き的側面の改革に挑戦します。また、税や保険料について、当事者意識の向上を図るための施策をさらに展開します。
- ・マイナンバー制度導入に向け、情報管理にも配慮し、しっかりとした準備を行います。税、社会保障、防災分野でマイナンバーが利用可能な事務を増やします。将来的に他分野でも利用拡大を図る方向で準備します。同時に、行政の働き方も見直します。

10 対話と議論によって、新たな価値を生み出します
【政治姿勢、議会】

台東区には優秀で真面目な公務員がたくさんいます。しかし、価値判断や決定するのは区民であり、その代表である議会です。行政が考える理想の台東区ではなく、区民が考える理想の台東区を創ります。短期的な視点での形式的公平性よりも、長期的な視野を持ち、区全体の利益を考えます。

- ・区議会議員では常設事務所を開設することはできませんが、「お茶会」を開催し、区民の皆様とじっくり対話できる機会を定期的に設けます。
- ・行政監視だけでなく、政策提言できる議会・選択肢を提供できる議会をつくりたい。議会補佐機能を強化するため、議会事務局は人員増の方向を目指します。図書館に調査機能を付与することを目指します。
- ・議会の透明化・見える化を推進します。速報性のある会議録のみならず、議事速報を出すことを目指します。委員会だけでなく本会議中継も行い、より身近な議会にします。「需要がないからやらない」のではなく、「行動を起こして需要喚起する」ことが必要です。
- ・議会の電子化を促進します。また、ペーパーレスな議会審議の導入時期を決定します。
- ・議会審議のさらなる活性化を目指します。質問通告の方法を含む質疑方式の再検討を行います。
- ・定数削減は、議会権限の強化を条件として取り組みます。
- ・議員報酬削減は、皆様のご協力を得て、政治活動のやり方を変えた上で取り組みます。

※ 20歳の時から国会審議を追っています。ここ数年は研究目的で戦前の会議録も読んでいます。今では考えられない発言も飛び出します。3~4年程前からは区議会の審議をチェックしていますが、とても不便。台東区は議会の見える化に関しては、かなり遅れています。